

薬学研究科 薬科学専攻(博士後期課程)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)】

薬学研究科薬科学専攻(博士後期課程)は、次に掲げる資質・能力を醸成し、さらに本専攻のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判断された人に対して博士(薬科学)の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる社会においてリーダーとして活躍できる能力
- 極めて高度の専門性と豊かな学識を有した研究者、専門職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や道徳的能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力

上記に加えて以下のいずれかの能力を有することとします。

- 最近の生命科学の進展の成果を基礎として、医薬品、化粧品(化粧品)、食品成分、環境化学物質、毒物等の化学物質の生体作用を、遺伝情報の発現・制御(ゲノミクス)、タンパク質の機能発現・制御(プロテオミクス)、代謝物の変動の制御(メタボロミクス)、および化学物質の物理化学的性質の情報に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品・化粧品(化粧品)の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した機能食品の開発・研究・製造・情報提供、食品、食品の組み合わせ、食品と医薬品の組み合わせを生理学的、薬動学的、毒性学的に評価する研究・情報提供、のいずれかができる能力
- 薬科学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、種々要因のグローバルな変化が人々の健康増進にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力
- 高度な医療や栄養管理を科学的根拠に基づいて発展させせることのできる能力

【カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)】

薬学研究科薬科学専攻(博士後期課程)では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の醸成のために以下のカリキュラムを設定しています。学習の成果は、定期的な形成的評価、最終段階での総括的評価で評価します。

- 高度先端薬科学特論、レギュラトリーサイエンス特論、ドライリサーチ特論を必修科目とし、高度な専門的な知識の修得および学識の涵養を図り、グローバルな視野をもち、社会の維持・発展に寄与する高度専門職業人を養成します。
- 特論演習では、各分野でそれぞれが専門とする教育・研究を対象とした極めて高度な知識と技能を修得し、グローバルなレベルで活躍できるスペシャリストを目指します。
- 博士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形成的な評価に耐えうる定期的なディスカッションをとおして課題研究

を遂行し、最終的に博士論文として完成させることにより極めて高度な研究能力を養成します。

●論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。

【アドミッション・ポリシー(入学受入の方針)】

薬学研究科薬科学専攻(博士後期課程)では、城西大学の建学の精神と薬学研究科ならびに本専攻の教育研究上の目的を理解するとともに、本専攻のディプロマ・ポリシーに示す資質・能力の修得を目指す以下のような人の入学を期待します。

●自然科学における確かな知識とグローバルレベルで高度な研究推進能力を人々のために活用しようとする強い意欲のある人

●薬学・薬科学の学問的深化を追及する中で、医薬品、機能性食品、化粧品(化粧品)、生活化学品と人々の健康との関係に興味と問題意識をもち、それにより得られた統合的かつ専門性の高い問題解決能力を医療と人々の健康増進、主観的 QOL (quality of life:生活と人生の質)の向上に活かす意志のある人

●薬学分野のみならず、薬学分野と化粧品分野もしくは食品・栄養分野の中間に位置する Pharma-cosmetics や Pharma- Nutrition 分野 Pharma-Nutrition 分野(薬科学分野)をグローバルな視点で発展させたいと思う意欲のある人

●高度な医療や栄養管理を科学的根拠に基づいて発展させたいと思う意欲のある人

●薬科学専攻(博士後期課程)において研究を行うために必要な基礎学力とプレゼンテーション能力を有する人

●大学または社会で学んだ教養をさらに深化させ、専門知識のさらなる向上のため、自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人

●論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考えると同時に、倫理的な態度をもってそれらの解決に意欲的に努力する人

入学者の受け入れは、以下の点に留意して実施します。

●本専攻の教育研究上の目的に相応しい人材を面接試験により評価・審査します。

●修士論文研究などのこれまでの研究経験に関するプレゼンテーションにより、基本的研究能力とプレゼンテーション能力を評価・審査します。

●薬学の研究をする上で必要な英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学の理解度を評価・審査します。

(2023年4月入学者用)